

参観者より

「どちらが」があるから引き算ではないか。

意欲を高めるために身近な題材(ポテトチップス)を使ったのがよかった。  
場面設定が適切。生活に返せる。

いろいろなやり方が出来る数字だと思い、変えなかった

めあてを書くまで5分の予定が長くなった。

ひき算の暗算の仕方を考えよう。

展開

3. 解決の見通しを持つ。  
◇気づいたことをつぶやく。

子どもたちの考えようとする姿勢はこれまでの積み上げの成果。

4. 自力解決をする。

自分の考えをしっかりと考える授業が出来ていた。

1つのやり方を確認してあげると、支援の必要な子も分かりやすい。

書画カメラで効果的に出ていた。

5. 自分の考えを友達に伝える。《言語活動》

主な発問と  
予想される児童の反応

1. 本時の課題を確かむ。

どちらの店がいくらお得

◎何算になり

$$\underline{53} - 26 =$$

◎どんな方法を使えばいいかな？

- \*さくらんぼ計算
- \*だいたいの数にして、考える。

ア)  $13 - 6 = 7$   
 $40 - 20 = 20$

$20 + 7 = 27$

イ) 26を20と6に分けて考える。

$53 - 20 = 33$

$33 - 6 = 27$

53を50と3に分けて考える。

$50 - 26 = 24$

$24 + 3 = 27$

エ) 26を30とみて  
ペア学習、グループ学習

$= 23$

$27$

の場面を見たかった。

評価規準  
(評価方法)

指導上の留意点

\*いくら安いかわかると、その分を違うものに活用できることを実感させ課題把握しやすいようにする。

\*既習の加法の学習から、減法の場合も数を分けたり、数を多く見積もったりして計算することができるか見通しを持たせる。

教師の評価も適切。

【考】数の柔軟な見方を基に、暗算による2位数どうしの減法の計算の仕方を工夫して考え、説明することができる。  
(ノート・発言)

\*考え方をノートに書かせる。  
\*早く解決できた児童には、他のやり方も考えさせる。

前で発表した子は本時の目標が十分達成できた。

\*考えを類型化して板書(掲示)する。

友達の考えと比べよりよいものに仕上げていこうとする姿勢が見えた。これまでの積み上げの成果。

学び合いの授業が出来ていた。分からないことが質問できていた。

ま と め	◇全体場で出し合う。 6. 考え方や答えを確かめる。 ま ち が い を も と に 考 え を 広 め て い た の が よ か っ た。	◎発表してもらった考えで、似ているところはありませんか。(どれがやりやすいかな?)	*それぞれの考え方の良さを出させる。そのうえで共通点や良さについてまとめる。  *まとめが書けない児童には、学習をふり返らせる。
	7. 学習で分かったことをまとめる。 ひく数やひかれる数を分けたり、何十にいくつ足りないかを考えれば、暗算をすることができる。	◎学習のまとめを書きましょう。	
	8. 適用問題を解く。 ◇ペアで自分の答えの出し方を伝え合う。 《言語活動》	◎問題を解きましょう。 $72 - 49 =$ 数によってやり方がちがうということも適用問題でやりたかった。	
9. 学習をふり返る。			*自分が便利だと思う方法で考えるようにする。

最後、時間が足りなくて残念。話し合いの場面を見たかった。

・学習規律が定着している。  
・聞くことを大切に指導しているのがよい。

支援の必要な子にどういふうに今日の授業を満足させていくか。

小野川指導主事より

成果など	課題など
<ul style="list-style-type: none"> <li>・丁寧な授業がなされている。</li> <li>・評価規準を数学的な思考にしたのはよかった。</li> <li>・子どもたちが考えたいくなるような導入づくりが大切。</li> </ul>	<p>暗算は書けない状況が暗算である。書けない状況で子どもたちがどうするかが見たかった。書かせる前にどうするか聞いたかった。リレー説明を取り入れてほしかった。→支援が必要な子どもも巻き込んで全員で考えていく。</p> <p>まとめはいくつかの問題をやっておいて、その共通点を見つけるとまとめると深まるのではないか。(1問だけでまとめるのではなく)思考の過程が見える適用問題をする。</p>

提案授業について 笠井調査官より

今日の授業	改善点など
<ul style="list-style-type: none"> <li>・途中までしかできていない子が多かった。</li> <li>・たくさんの考え方を出すとしんどい。</li> <li>・数の世界だけで授業が進んでいる。</li> <li>・適用問題</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・しんどい子はいなかったのか。具体物（お金はいらなかったのか。）</li> <li>・これだけは最低できてほしいという考えをしぼる。（定番を教える。）</li> <li>・1つのやり方に絞って教えると支援が必要な子のレベルアップにつながる。</li> <li>・頭の中で考える時は、おぼえる数が少ない方がよい。</li> <li>・自力解決の時の子どもの様子を看取ることが大事で、その実態に応じて話し合いの仕方を変える。</li> <li>・時系列でやり方を書くことは子どもは苦もなくやってのける。しかし、こういう書き方でよいのか。（自力解決の場面で）</li> <li>・自分の考えのみで満足している子は、友達の考えをまねさせる方法で学び合いをさせる。</li> <li>・時系列でやり方を書くことは子どもは苦もなくやってのける。しかし、こういう書き方でよいのか。（自力解決の場面で）</li> <li>・学びあったことが分かるような適用問題に。</li> <li>・技能ではなく、考え方で。</li> <li>・数字を変えて何問かする。この数字だとこの方法でということも考えさせる。</li> </ul>

◎授業とは新しいことが出来るようになって終わる授業がよい。

◎引き算は、求差よりも求残の法が考えやすいのではないか。

各学年の授業について（笠井調査官の講話より）

1年生…引き算というものを豊かにしたい。いろいろな場面があるということを知らせることが大切。

2年生…・問題を全文写すよりも、大事なところのみを写すなど時間短縮を考える。  
・抽象度の高いものを使うようになるところは丁寧に指導。

3年生…（1組）子どもの説明の中で足りないところは、教師が突っ込んで発問していくことで、全体のものにしていく。

4年生…・数直線を子どもから作っていく過程を大切にしている。  
・教師が与えるのではなく、子どもたちが自ら作り上げることが大切。  
・倍の指導→何を1と見るかを徹底指導。

5年生…・少数で割る初めての時間→実物を使い場面を広げる。2. 5mで300円ということは、5mで600円、10mで1200円。  
・ねらいが2つは大変。「立式ができること」「計算の仕方を理解すること」  
・教師が実際に目盛りを打った数直線を書いて見せている。→子どもが自然にまねしていく。  
・場面を豊かにするために「式から入らず、とりあえず答えを出してみよう。」という導入を。

6年生…数直線は方眼ノートにきちんと目盛りを打って書かせることが大切。  
量が見えるようにすると分かりやすい。めあてに応じたプリントづくり。